

## 水稻新奨励品種秋田糯45号の特性と栽培法

誌名	東北農業研究
ISSN	03886727
著者	鎌田, 易尾 山本, 寅雄 畠山, 俊彦 ほか4名,
巻/号	45号
掲載ページ	p. 21-22
発行年月	1992年12月

## 水稲新奨励品種秋田糯45号の特性と栽培法

鎌田易尾・山本寅雄・畠山俊彦・真崎聡・加藤武光・田口光雄\*・島田孝之助\*\*

(秋田県農業試験場\*・角館農業改良普及所\*\*秋田遺伝資源開発利用センター)

Characteristics of a New Rice Cultivar "AKITA MOCHI 45"

Yasuo KAMADA, Torao YAMAMOTO, Toshihiko HATAKEYAMA, Satoshi MASAKI,  
Takemitsu KATHO, Mituo TAGUCHI\* and Kohnosuke SIMADA\*\*

(Akita Agricultural Experiment Station\*・Kakunodate Agricultural Extension\*\*  
Office\*\* Akita Research Institute for Genetic Resources)

### 1 はじめに

秋田県の水稲糯品種は、これまで「オトメモチ」と「ヒデコモチ」の2品種が県の奨励品種として普及されてきた。しかし、近年、食品加工を中心とする実需者からは、さらに粘りや味がなど質の向上を望む声が強くなっている。

「オトメモチ」については、1966(昭和41)年県の奨励品種になってから今日まで、早生の強稈、多収品種として県の全域で栽培されてきたが、食味の評価がよくない、いもち病抵抗性、耐冷性が弱いなどの欠点がある。「秋田糯45号」は強稈、多収、良もち質、いもち病抵抗性など「オトメモチ」に勝る早生品種として、1992年度秋田県の奨励品種に採用されたので、その特性概要と栽培法について報告する。

### 2 試験方法

本報告のデータは、水稲新品種育成試験及び水稲奨励品種決定試験によるものである。

### 3 試験結果及び考察

#### (1) 育成経過

「秋田糯45号」は1981年(昭和56年)に秋田県農業試験

表1 秋田糯45号の特性一覧(1987~1990年の平均値 育成地)

品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	芒の多少	芒の長短	稈先色	穂発芽性	耐倒伏性	耐冷性	耐病性		玄米収量 (kg/10a)	品質 (1~9)
												葉いもち	穂いもち		
秋田糯45号	8.2	9.12	63.4	17.7	458	少	短	褐	やや難	強	中	中	中	605	6.2
オトメモチ	8.4	9.11	64.6	15.6	424	希	極短	褐	易	強	やや弱	弱	やや弱	567	6.8

表2 玄米の粒形(1987~1990年の平均)

品種名	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	長さ X幅
秋田糯45号	5.09	2.90	2.11	14.77
オトメモチ	4.70	3.01	2.18	14.15

玄米収量は10a当たり600kg以上が期待でき、「オトメモチ」に勝る多収が得られる(表1)。

餅質について表3に示した。これは餅加工業者に依頼し、餅の加工特性について判定したものである。これによると

場において、「中部糯37号」を母、「アキヒカリ」を父として人工交配した組み合わせの後代から、選抜、育成された。1989年F<sub>2</sub>世代から「秋田糯45号」の系統名で奨励品種決定調査及び県内現地試験に供試され、1991年「秋田糯45号」の名で種苗登録申請がなされ、1992年秋田県の奨励品種に採用された。1992年でF<sub>1,2</sub>世代である。

#### (2) 特性の概要

「秋田糯45号」の出穂期は「オトメモチ」に比べ2~3日早い、成熟期は1日遅い。育成地では「オトメモチ」より早い早生に属する。稈長は「オトメモチ」より短い短稈で、稈質も強く倒伏抵抗性は強とみられる。穂長は長め、粒着密度は中程度、穂数は多い偏穂重型である(表1)。

いもち病抵抗性はPi-a遺伝子をもつと推定され、圃場抵抗性は「オトメモチ」より強い中とみられる。長期冷水処理による耐冷性は「オトメモチ」より明らかに強い中である。穂発芽はやや難である(表1)。

芒は「オトメモチ」よりやや多く少程度で、長さは短である。稈先色は「オトメモチ」並の褐色である。玄米の粒形は「オトメモチ」に比べ厚さがやや薄く、幅がやや小さいもの、長さが大きい。粒としてはやや小粒で形は中である。外観品質は「オトメモチ」に勝る(表1, 2)。

外観は「オトメモチ」より劣り、硬さはやや硬い。しかし、硬い割りには弾力性、粘りがあり餅ののびが良い。加工業者からは「お供え、お雑煮にしても形が崩れず餅質の良い糯米である」との評価を得ている。

#### (3) 施肥反応と裁判上の留意事項

1990年と1991年の2か年、基肥窒素5, 7, 9 kg/10aに活着期、幼穂形成期、減数分裂期の各追肥を組み合わせ、これら施肥と生育収量を検討し、その結果を表4に示した。概ね施肥量が多いほど主に穂数が多くなり多収を示す。追肥では幼穂形成期追肥が収量への効果大きい。また、多

表3 餅加工特性(1989年産)

品種名	餅つき時間	外観 (はだ)	光沢	粘り	硬さ	弾力性	総合判定
秋田糯45号	普通	やや悪い	やや悪い	やや粘る	やや硬い	ややある	やや良い
オトメモチ	普通	やや良い	やや良い	普通	普通	普通	普通

☆判定基準：5段階(例 良い, やや良い, 普通, やや悪い, 悪い)

表4 施肥と生育収量

年度	施肥量	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	玄米重 (kg/10a)	品質 (1~9)	下葉枯	倒伏 (0~5)
1990	5222	63.4	17.7	479	606	5.0	2.3	0.0
	7202	65.0	17.7	500	559	4.5	2.8	0.0
	9202	66.4	16.9	510	641	6.0	2.8	0.0
1991	5222	62.7	18.1	390	501	7.0	2.0	0.5
	7220	63.3	18.6	430	509	3.5	3.0	0.5
	7202	63.0	17.5	415	483	5.5	2.0	0.5
	7022	64.4	18.1	415	515	6.0	2.5	2.5
	7222	64.2	18.3	414	553	6.0	3.0	0.6
	9222	64.5	18.7	441	541	5.0	2.5	0.7

肥でも稈の伸びが比較的少なく倒伏も少ない。しかし、1990年は多肥により品質の低下が見られた。

2か年の結果からみると「秋田糯45号」は耐肥性が強く、基肥の目安は「キヨニシキ」並と見られる。追肥は幼穂形成期～減数分裂期を中心として、過剰な追肥は登熟、品質低下などを招くので避ける必要がある。また、この品種は刈り遅れにより品質の低下(褐変粉の多発)を招くので、適期刈り取りを行うことが必要である。

#### 4 まとめ

「秋田糯45号」は「オトメモチ」の収量性と餅質および耐冷性、いもち病抵抗性、穂発芽性を改善した早生の良質糯品種として、極高冷地を除く秋田県全域に作付拡大が期待できる。